



くれよん



2026年 1月15日 第182号
NPO法人町田市学童保育クラブの会
所在地 町田市中町1-19-5
大貴ビル202
電話 042-794-7235
広報担当 発行

新年挨拶

旧年中は当法人の運営にご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。広報紙くれよんでは引き続き学童保育クラブの活気ある様子や、法人の取り組みを積極的に発信してまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

第4回ロケットキッズ活動報告



当法人では町田市の高学年児童の居場所作りを目的に高学年居場所事業『ロケットキッズ』を行っています。11月1日（土）・2日（日）、Nature factory 東京町田で開催し、26名が参加しました。

初めて参加する子は緊張する様子が見え、今年の6月の企画や去年から参加している子たちは再会を喜びました。開村式では玉川大学インターン生による自己紹介レクリエーションで打ち解け、その後ウォークラリーを行いました。班ごとに協力しミッションをクリアしながら食材カードを集め、夕食は獲得した食材でカレーを作りました。夜はキャンプファイヤーを囲み、突然炎の色が変わるなど、幻想的な空間の中で、焼きマシュマロやココアを楽しみ、最後は花火で締めくくりました。

2日目の朝はカートンドッグ、昼はおにぎり作りに挑戦しました。全員で薪割りをしたあと、お米を研いだり火起こしをしたりして分担して飯盒でご飯を炊きました。炊き立てのご飯の仕上がりに歓声が上がっていました。学童保育クラブや年齢を超えた交流で笑顔あふれる2日間となりました。参加してくれた皆さん、ボランティア・インターン生の方々ありがとうございました。

目次

- 1面：新年挨拶/第4回ロケットキッズ活動報告
- 2面：全国学童保育研究集会 in 福岡
- 3面：子ども食堂清風園『にこにこ清風食堂』／職場体験報告
- 4面：連載企画『12クラブのあそび大集合！』



正会員・賛助会員募集

会員を募集しております。当法人にご賛同いただけの方は、法人事務局までご連絡ください。

個人正会員 一円 3000円以上

個人賛助会員 一円 1000円

問い合わせ先：042-794-7235（法人事務局）

今後の予定

ぶちくれよんひろば（子育て支援事業）

1月 開放：14日、21日 企画：28日

2月 開放：18日 企画：25日

3月 開放：なし 企画：11日



全国学童保育研究集会 in 福岡

10月25日（土）、26日（日）に全国学童保育連絡協議会主催の『第60回全国学童保育研究集会』が福岡市で開催されました。

全国学童保育研究集会とは、保護者、支援員を始め、全国の学童保育クラブの運営者や研究者等、様々な立場から学童保育に関わる方々が一堂に会し、1年に1度、2日間にわたって交流を深め、ともに学び合う場です。

当法人からは、6名の職員が参加しましたので、ご報告いたします。



1日目 基調報告・記念講演

基調報告は、「今あなたは砂漠にいます。ポケットには地図があり、地図にはオアシスが描いてあります。オアシスには辿り着けるでしょうか。」という例え話から始まりました。学童保育の今ある姿の話の後、『全国各地で続く自然災害、被災した地域の一日も早い復旧、復興を願って』と話がありました。災害が発生したとき、どうやって学童保育の生活を保障するのか、日常を取り戻すうえでの不安や困難、支援員自身も被災し疲弊しているなかでの保育の継続、また、時間が流れ、災害当時を知らない人々が支援員になった時の支援員同士の関わり等、災害発生から普段に戻ることの難しさ、重要性が説かれました。そのほか『どういう状況の中で開かれる全国研なのか』『保護者と支援員が力を合わせ、より良い学童保育を』といった話がありました。そして、最初の話の答えは、『辿り着けない』です。これは、自分の現在地がわからなければ、目的地にも辿り着けないという話です。自分が支援員としてどこにいるのか、普段の平穀無事はどのように作っていくべきか、身につまされる話でした。

記念講演は、大東文化大学の松田洋介先生より『子どもたちが自ら社会を作るには——共に生きる大人が大切にしたいこと』というテーマで話がありました。私たちが持つ『子どものイメージ』の再考の必要性、様々なものが学びに繋がっていること、教育化する放課後、今の子どもたちに合わせた『権利の自治』を作ることという内容の講演でした。

南大谷学童保育クラブ 丸山 壮汰

2日目 分科会

分科会では、『職場づくりと指導員組織』という講義を受けました。この分科会を選んだ一番の理由は、子どもにとって安心できる学童保育クラブは、良いチームワークから生まれると感じることが多くあったからです。ひとりの職員では子どものすべてを見守ることはできません。いろいろな角度から子どもを見て、相談し合える関係があるからこそ、その子に合った支援ができ、安心して過ごせる場所になります。保護者にとっても単に通わせるだけの場所ではなく、子どもが楽しく通ってくれるから安心できる場所になるために、まずは職員同士の関係づくりが大切だと考えました。

チームで働く上で大切なのは、立場関係なく言うべきことは言うこと、お互いの努力や背景を理解し合うこと、相手の『察し』に頼るのではなく、状況や自分の考えを丁寧に言葉にして伝える姿勢が不可欠であると学びました。支援員の関係性は子どもにも保護者にも伝わります。だからこそ、チームづくりは保育と同じくらい大切で、雑談や「ありがとう」の一言が信頼関係や仕事の質の向上につながると実感しました。

最後に、今回の研修を通して、支援員という仕事はひとりではできないということを改めて感じました。不満を抱える前に「ありがとう」を増やすこと、相手の背景を想像すること、そして丁寧に聞いて丁寧に伝えることを大事にしながら、子ども・保護者・支援員みんなが安心して過ごせる学童保育クラブづくりに貢献していきたいと思います。

どろん子学童保育クラブ 竹野谷 実莉

来年は山形県で開催予定です。支援員だけでなく、保護者の方も参加できます。

子ども食堂清風園『にこにこ清風食堂』



子どもたちが、仲間たちと地域の中で育つ——

そんな日々を大切にしている私たちにとって、子どもたちが安心して過ごせる居場所が地域にあることは、何より心強いことです。

今回は、同じ思いを胸に活動を続けている社会福祉法人贊育会清風園の『にこにこ清風食堂』をご紹介します。食事の提供にとどまらず、遊びや学び、高齢者とのふれあいなど、子どもたちの育ちを地域ぐるみで支える場となっています。清風園の近隣である金井学童保育クラブは、定期的に交流をしています。

町田市で最初にこども食堂をスタートした清風園のこども食堂は来年（2026年）で10周年を迎えることとなりました。

コロナ以前から始まり、困難な時期を乗り越えながら、今もなお地域に根ざした活動を続けております。地域の皆さん、企業、農家の方々、理容組合など、さまざまな団体からのご寄付に支えられ、現在は1食200円でお弁当を提供しています。

お弁当の調理には、清風園の栄養士とボランティアの皆さんのが中心となり、またグループホームのご利用者にもお手伝いいただいている。お弁当の販売にも、清風園の職員に加え、ボランティアの方々が力を貸してくださいています。

「おいしかったよ」「また、から揚げが食べたい」といったリクエストもいただきながら、今ではお子さんから高齢者の方まで、幅広い世代にご利用いただいております。



*暦や季節を意識したメニューづくりにも力を入れています！

- ・2月の節分には『おまめのごはん』
- ・9月の敬老月間には『うな弁当』
- ・12月にはクリスマスメニューとして『ハンバーグ』や『ローストチキン』など

蓋を開けた瞬間に「わあ！」と笑顔がこぼれるような、そんなお弁当づくりを心がけています。

【こども食堂・フードワゴンの開催日・場所】毎月第3木曜日 午後5時30分～ 金井中学校駐車場

清風園施設長 木口 圭子

職場体験報告

町田市では、中学生が地域の事業所や施設で働く体験を行う『職場体験』を、キャリア教育の一環として位置づけています。子どもたちが社会の一員としての役割を学び、将来の進路や生き方を考えるきっかけとなる大切な取り組みです。学童保育クラブでもこの取り組みに協力しています。



金井学童保育クラブ

薬師中学校より11月19日（水）～21日（金）、2名の職場体験を受け入れました。

午前中は、学童保育クラブ内で花壇づくりの準備や保育準備の作業など日常の業務を体験しました。

午後は、子どもたちを見守りながら、おやつの配膳やあそびのサポートを行いました。紙芝居も披露するなど、子どもたちは目を輝かせながら楽しみました。

今回の職場体験を通して、中学生が『働くことの意義』や『人と関わる喜び』を実感できる一助となればうれしく思います。法人にとっても地域とのつながりを深める貴重な機会となりました。



12 クラブのあそび大集合！



今年度の連載企画は『12 クラブのあそび大集合！』と題して子どもたちのあそびの様子を紹介していきます。今、学童保育クラブで流行っているあそび（室内あそび・外あそびの様子等）を取り上げ、写真や文章を通して知っていただければと思います。また、支援員の子どもの頃好きだったあそびについても紹介します。

鶴川学童保育クラブ

外あそびが好きな子が多く、サッカー、一輪車、追いかけっこをして遊んでいます。サッカーは勝ち負けにこだわらず、みんなが楽しく遊べるように3年生が中心となり、チーム決めやゴールキーパーを決め、1、2年生も一緒に楽しく遊んでいます。また、一輪車や追いかけっこがブームで、広い校庭を走り回ったり、上級生が下級生に一輪車の乗り方や技を優しく教える姿が見られます。室内あそびではカードゲームや将棋が流行っています。登所すると一緒にカードゲームや将棋をする仲間を探し、楽しそうに遊んでいます。



大蔵学童保育クラブ



人気のあるあそびはクリップの形をしたおもちゃのブロックあそびと皿回しです。様々な色のクリップをつなげて、一つの作品として作っています。龍やロボットの形にして、動かせるようにするにはどのパーツで組み合わせたら良いかを考えながら工夫しています。

皿回しは棒とプラスチック製のお皿を使って遊んでいます。上級生は下級生に技を教え、同じ技ができるように練習をしています。

南大谷学童保育クラブ

最近、シール帳を作って遊ぶ子どもの姿が多いです。あそびで使える再生紙やリサイクル紙、通称『裏紙（うらがみ）』を、小型のノートサイズに整えて台紙にします。オリジナルのイラストを描いて切り抜き、シールのように粘着出来るよう、セロハンテープで上手に加工します。台紙にも、思い思いのイラストを描き、オリジナルシール帳を作って遊んでいます。着せ替え用の洋服を作ったり、シールを収納できるポケットを作ったりと、友だち同士、和やかに話しながら工夫しています。子どもたちの個性が光るシール帳に支援員も脱帽です。



支援員の子どもの頃好きだったあそび紹介

私が小学生だった頃、女の子の間で『チェーリング』というあそびが流行っていました。直径1cmくらいのプラスチック製の輪っか（チェーリング）を10個ほど球状に繋げたものを5つ用意し、お手玉のように投げて遊びます。複数個まとめてすくい上げ、手の甲で受け止めるなどの技があり、一つの技に成功すると次の技に進めるという遊び方でした。休み時間になると、友だち同士教室や廊下に集まり、夢中になって遊びました。チェーリングの色を好きな色でまとめたり、友だちの物と交換したり、工夫しながら楽しく遊んでいたことを、今でも懐かしく思い出します。

南大谷学童保育クラブ 前